

## 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

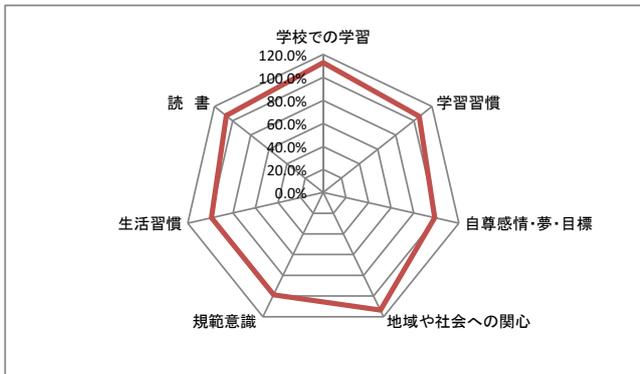
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	「話すこと・聞くこと」「読むこと」漢字やことわざなど「言語事項」について全般的に、よくできている。特に、目的に応じて文章の内容を理解する力や文章全体を概観しながら効果的に読むなどの力が伸びている。	上回っている
算数	全体的に、基礎的な計算や測定などの力は、身につけている。また、図形の面積の求め方の説明をするなど数学的な考え方などについても全国平均を上回っている。しかし、示された計算の仕方を解釈してそれをもとに、別の解き方の説明を考えるような問題などには全国と同様に課題がある。	上回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」という児童が全国平均より多く、各教科の学習の中で話し合う活動を重視してきた成果が表れている。地域行事への参加や地域への関心については、全国平均より高い。読書が好きな子は多いが、授業以外で、読書を全くしないと答えた児童も1割程度いる。また、家庭学習の時間は、「毎日1時間以上学習する」児童の割合は、全国平均を5ポイントほど下回っている。「朝食を毎日食べる」や「決まった時間に寝る」、「決まった時間に起きる」「決まりを守る」など生活習慣や規範意識についても、全国平均と比べて低い。「将来への夢や目標を持っている」と答えた児童は、全国平均をかなり上回っているが「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童の割合が低く、生活習慣の改善、規範意識や自尊感情を高めることが課題である。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

各教科の授業の充実に向け、子ども同士が、小グループで学びあうアクティブラーニングを授業の中に積極的に取り入れる。また、問いを吟味して、子どもの追求意欲を高め、考えたことを図や文に書いたり、表現する力を高めていく指導の充実に努める。家庭学習の時間の改善については、低学年から一貫した考え方で、時間や内容について家庭と連携しながら取り組んでいく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

早寝早起きや生活習慣の改善や規範意識の醸成については、家庭と連携し継続的に取り組むとともに、中学校校区の共同での取り組みでスマホ10時オフや宿題や家庭学習の取り組みの徹底を図る。学校での子どもたちの様子を様々な形で情報発信し、家庭や地域と学校がともに子どもの良さをほめる機会を共有していくことで、子どもの規範意識や自尊感情を高めていく。